



江森 由美子

Emori Yumiko

この日はトマトを作っている
石原元治さんの取材



雨の中広報活動する
JA職員たち

江森 由美子さん(西原)

JA晴れの国岡山の職員。
JAまにわで、広報誌「きらめき」の取材や編集、
ホームページやSNSの運用などの広報業務を10年以上担う。
その後、8つのJAが合併しJA晴れの国岡山が発足した今も
真庭地区を中心に広報業務に従事している。

真

MANIWA BITO

庭人

1人でも多くの人の目に留まる広報を

江森由美子さんが、JAまにわ(現JA晴れの国岡山)で仕事をするようになったのは14年前のことです。「子育てが少し落ち着いたので、働こうと思ったんです。野菜を数える仕事があるよと聞いて入ったんですけど」と、当時を振り返る江森さんですが、その2年後にはJAまにわの広報誌「きらめき」の制作に携わるようになり、カメラを手に取材の日々へと身を投じていくことになりました。

その頃はまだ広報誌を作ることだけが仕事だったそうですが、ここ数年は広報誌だけでなく、インスタグラムなどSNSや、ホームページを

活用しての情報発信、テレビなどメディアへの対応、農業新聞への寄稿など積極的に広報の幅を広げてきました。これだけの仕事をこなすのは、なかなか大変そうなのですが、そのことを江森さんは、「忙しい農家さんが時間を作って取材に応じてくれるのだから、いろいろな媒体で発信して、1人でも多くの人の目に留まるようにしたいと思っています」と、当たり前のように話します。

農業への敬意

「真庭を始め、日本全国の農家さんは、ものすごく努力をしています。買いたい物をするときは、ぜひ産地を見てそれから選んでください。日本の

食料自給率は低いのですが、それを上げるためにも、国産のものを、できれば真庭産のものを手に取ってほしいです。そう話す江森さんの言葉からは、食料を生産する農業という仕事への敬意が感じられました。江森さんの記事は、8つのJAが合併したJA晴れの国岡山の広報誌「晴ればれ」や、真庭統括本部だより「きらめき」にも掲載されます。読めば真庭の野菜が食べたいなること間違いなしです。

